

- 問1 2016年の統計において、新潟県は米の収穫量で全国シェア8.4%を占め、日本一となっています。新潟県と秋田県、山形県といった北陸・東北地方の地域が、寒冷な気候条件を克服して日本有数の米の生産地となった背景にある、科学的な取り組みとして最も適切なものはどれですか。
(2019年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1. ピーラーハウスなどを活用して成長を早める施設園芸 | 2. 米の生産量を制限して価格を維持しようとする減反政策 | 3. 寒さに強く、味の良い稲を育てるための品種改良 | 4. 暖かい気候を利用して出荷時期を早める促成栽培 |
|-----------------------------|------------------------------|---------------------------|---------------------------|
- 問2 観光地における道路整備は、観光客の利便性向上だけでなく、環境保全の側面からも推進されることがあります。渋滞によって車の速度が通常の4分の1に低下すると、環境への負荷（排ガス等）が約2倍になるというデータに基づいたとき、道路整備が環境負荷の軽減につながる理由として適切なものはどれですか。
(2018年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 道路建設によって森林を伐採し、二酸化炭素の吸収源を減らすことができるから。 | 2. 道路を拡張してより多くの大型バスを受け入れ、自家用車の利用を禁止するから。 | 3. 道路整備による財政負担を増やすことで、結果的に村全体のエネルギー消費量を減らすから。 | 4. 渋滞を解消して車の走行速度を上げることで、排ガスの排出量を抑制できるから。 |
|--|--|---|--|
- 問3 1960年から2017年にかけて、日本の65歳以上人口の割合は5.7%から27.7%へと急激に増加しました。このような高齢化の進展が、現在の日本の社会保障制度や経済に与えている影響として、最も適切な説明はどれですか。
(2020年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|-------------------------------------|
| 1. 現役世代の割合が相対的に減少し、年金や医療などの負担が重くなっている | 2. 若年層の人口が増加したことで、学校などの教育施設の不足が問題となっている | 3. 家計に占める食費の割合を示すエンゲル係数が劇的に低下し、貯蓄額が増えている | 4. 高齢者の増加に伴い、第1次産業に従事する労働力が過剰になっている |
|---------------------------------------|---|--|-------------------------------------|
- 問4 日本の製造業の立地に関する統計において、製鉄業や石油化学工業の出荷額が臨海部で極めて高い割合を占めている背景について述べた文として、正しいものを選びなさい。
(2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 製品の付加価値が高く軽量であるため、船舶ではなく航空機を用いた輸出に特化して空港周辺に立地したため | 2. 重量のある原料の輸入と、加工した製品の輸出の両面において、海上輸送を利用することが最も経済的であるため | 3. 労働集約的な産業であるため、周辺の人口密集地から安価な労働力を確保しやすい内陸部の工業団地を避けたため | 4. 精密機械の組み立てに不可欠な、不純物の少ない高度な湧水が海岸沿いの砂丘地帯で豊富に得られるため |
|--|--|--|--|
- 問5 農業産出額の構成において、米が全体の約6割を占める東北地方と、畜産が約5割・野菜が約3割を占める北海道を比較したとき、北海道の農業に見られる特徴として最も適切なものはどれか。
(2020年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 1戸あたりの耕地面積が極めて広く、大規模な機械化農業や酪農が行われている。 | 2. 夏でも涼しい気候を利用して、レタスやキャベツなどの高原野菜を栽培している。 | 3. 温暖な気候を利用して、ピーマンやナスなどの野菜を冬に出荷する促成栽培を行っている。 | 4. 大都市に近い立地を活かして、生産した農産物を新鮮なうちに届ける近郊農業が中心である。 |
|--|--|--|---|
- 問6 1985年から2010年にかけての日本の豚肉供給に関する統計資料によると、国内の生産状況と輸入の動向には明確な特徴が見られます。この時期の動向を説明した文として、最も適切なものはどれですか。
(2017年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 食生活の変化に伴い国内生産量が急激に増加した一方で、安価な外国産の輸入量は1985年以降、一貫して減少を続けている。 | 2. 国内生産量と輸入量はともに1985年から右肩上がりに増加しており、国内の供給能力が輸入を上回るペースで拡大している。 | 3. 国内生産量は約90万トン前後でほぼ横ばいの推移となっているが、輸入量は2005年ごろまで大きく増加し、その後はやや減少している。 | 4. 国内生産量は養豚農家の減少により大幅に減少したが、それを補うために輸入量が2010年にかけて急増し、国内生産量の3倍に達した。 |
|---|---|---|--|
- 問7 現代日本の交通網において、道路網の整備や自家用車の普及、トラック輸送の拡大により、鉄道に代わって旅客輸送量と貨物輸送量の両面で最大のシェアを占めるようになった交通手段を何といいますか。
(2017年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-------------|-------------|----------|
| 1. 船舶による輸送 | 2. 新幹線による輸送 | 3. 航空機による輸送 | 4. 自動車輸送 |
|------------|-------------|-------------|----------|
- 問8 中部地方の各県における工業製品の出荷状況をまとめた統計において、製造品出荷額全体に占める「電子部品・デバイス」の割合が15%以上と高く、精密機械工業の伝統を背景に電子工業が発達している内陸の県として、最も適切なものはどれですか。
(2019年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 長野県 | 2. 愛知県 | 3. 静岡県 | 4. 岐阜県 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問9 鳥取県で日本なしの栽培が盛んになった背景として、土地の特性を活かした取り組みが挙げられます。かつて稲作に適さないとされた水はけの良い傾斜地や乾燥しやすい地域において、スプリンクラーなどの灌漑施設を整えることで大規模な栽培が可能となった、鳥取県を代表する地形を選びなさい。
(2023年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|---------|--------|
| 1. シラス台地 | 2. 牧之原 | 3. 鳥取砂丘 | 4. 秋吉台 |
|----------|--------|---------|--------|
- 問10 日本の製造業における大企業と中小企業の比率を示した統計において、中小企業（従業者299人以下）が全体の約99%を占め、大企業（従業者300人以上）がわずか1%程度にとどまっている項目はどれか。
(2017年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| 1. 工業製品出荷額 | 2. 輸出総額 | 3. 事業所数 | 4. 従業者数 |
|------------|---------|---------|---------|
- 問11 日本のエネルギー資源の輸入先国別の割合をみたとき、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、カタールなどの国々からの輸入が大部分を占め、中東地域への依存度が極めて高い資源はどれですか。
(2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|-------|-------|
| 1. シェールガス | 2. 液化天然ガス | 3. 原油 | 4. 石炭 |
|-----------|-----------|-------|-------|
- 問12 日本の農林水産業において、食生活の変化にともない消費量が増加したものの、国内での生産量がそれに追いつかず、食料自給率がおおむね30から50パーセント前後の低い水準で推移している品目として最も適切なものはどれですか。
(2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 大豆 | 2. 果実 | 3. 肉類 | 4. 野菜 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問13 日本の製造業における企業規模別の統計について、中小企業（従業者299人以下）が全体の約7割（69.4%）を占めている指標はどれか。
(2017年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| 1. 従業者数 | 2. 輸出総額 | 3. 製造品出荷額 | 4. 事業所数 |
|---------|---------|-----------|---------|